

**博士課程教育リーディングプログラム
平成27年度プログラム実施状況報告書**

採択年度	平成24年度		
申請大学名	山形大学	申請大学長名	小山 清人
申請類型	オンリーワン型	プログラム責任者名	大場 好弘
整理番号	002	プログラムコーディネーター名	飯塚 博
プログラム名	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

山形大学理工学研究科では、新たな価値を創成し、各方面において地域及び国際的に活躍が出来、将来的に国際標準化を勝ち取る国際的企画コミュニケーション力を兼ね備えたリーダーとなれる高度職業人及び研究者を育成しようとして改革を進めている。

本プログラムでは特に下記4つの資質をバランス良く備える人材を育成しようとしている。

- 1) エネルギーや環境に対する高い問題意識と地球規模の福祉増進を目指す未来志向の使命感にあふれる人材
- 2) 有機材料工学を主とし電気電子工学、システム工学（基礎と応用）の基盤知識を備えた高度な専門性を駆使できる人材
- 3) 科学的視点と経済的視点、ミクロな視点とマクロな視点などの複眼的思考を持ち価値創成実践力を兼ね備えた人材
- 4) 国際交渉に臨めるグローバル企画コミュニケーション力を兼ね備えた人材

本学では平成22年度に日本初のフレックスコースシステム創成工学科を工学部に立ち上げ専門性に特化せず、より広いバックグラウンドを持つ人材育成を進めている。本プログラムは同科と連携した教育が可能となる。

2. プログラムの進捗状況

学長（全体責任者）のリーダーシップの下、大学院理工学研究科長（プログラムコーディネーター）を中心とする「フレックス大学院プログラム開発・運営委員会」を企画・運営の意思決定機関とし、運営委員会の実行支援組織として、関係全教職員が参加するフレックス大学院運用部会を委員会の下に新たに設置し、更なる効率的・効果的な運用を行った。

本プログラムの教育目標を明確化するため、4つの資質「高度な専門性」「複眼的思考を持った価値創生実践力」「未来志向の使命感」「グローバル企画・コミュニケーション能力」を含む「創造性」と「主体性」の2つの能力に整理し直した。

学生募集に関しては、HPの刷新、個別面談、国際スマートシステム会議、記者会見、特別シンポジウム等を実施・活用し、広報活動を継続した。具体的には平成27年に、内外の優秀な学生6名を獲得した（留学生4名、社会人学生3名、女子学生1名（重複有））。さらに、次年度4名（高専生1名、女子学生1名含む）のコース生を選抜した。

学修状況については、プログラム独自のキャリアデザイン科目（スタートアップキャンプ、地元グローバル企業見学を含む）を引き続き開講した。主専攻・副専攻を決定し、メンター教員の個別アドバイスを元に、各自のキャリアパスと難易度に応じた講義を受講させた。更に、国際シンポジウム(Smasys2015)、上海短期研修、国立科学博物館展示等を行った。なお、4名のコース生が国際共同研究（長期海外インターンシップ）科目を受講し、米・仏に渡航した。コース生の質保証の評価として、2回目のQE（Qualifying Examination）の実施を行い、受験したコース生全員の2年次から3年次への進級が決定した。さらに、5年次コース修了試験であるECE（End-of-course Examination）の運用規程を策定した。